

引用文献

- ・ 穴見梓、井田茉莉恵、亀田知美他(2011). 現代日本女性における不妊症・不妊治療と就業状態との関連. 日本受精着床学会雑誌, 28(2), 433-438.
- ・ David B. Dunson, Bernardo Colombo & Donna D. Baird.(2002). Changes with age in the level and duration of fertility in the menstrual cycle. Human Reproduction,17(5),1399-1403.
- ・ F. Zegers-Hochschild, G. D. Adamson, J. de Mouzon. et al.(2009). The International Committee for Monitoring Assisted Reproductive Technology(ICMART) and the World Health Organization(WHO) Revised Glossary on ART Terminology. Human Reproduction,24(11),2683-2687.
- ・ 羽太千春、和泉美枝、我部山キヨ子(2011). 高度生殖補助医療により妊娠した妊婦における不妊治療経験の受け止め. 母性衛生, 52(2), 256-262.
- ・ 播岡徳也、野村公一郎、細井哲他 (1999). 血液温を基準としたコアテンプ TM(CTM205)の精密度と正確度の評価. 臨床モニター, 10, 60.
- ・ 井田守、小川久仁子、松本寛史他(2011). 反復 IVF 不成功例に対する低反応レベルレーザー治療(LLLT)の試み. 日本受精着床学会雑誌, 28(1), 54-57.
- ・ 今中基晴、松浦裕子、藤野祐司他 (2011). 不妊治療における女性患者の精神的負担に関する意識調査. 日本受精着床学会雑誌, 28(1), 229-233.
- ・ 入来正躬(2003). 体温生理学テキスト-わかりやすい体温のおはなし-. 文光堂. 22-26.
- ・ 入来正躬 (2005). 体温のバイオロジー 体温はなぜ 37℃なのか 体温の生理学 体温の調節と調節中枢. LiSA 増刊(体温バイオロジー体温はなぜ 37℃なのか), 2-12.
- ・ 蔭山充 (1995). 女性のための東洋医学(20)冷えの治療(その 2). ペリネイタルケア, 14(1), 86-88.
- ・ 川嶋 朗(2010). 冷え外来. 医歯薬出版. 3.
- ・ 小暮晃子、熊谷由紀絵、久重侑子他(2012). 不妊症患者の証に関する統計学的検討. 漢方と最新治療, 21(3), 251-256.
- ・ 三浦友美、交野好子、住本和博(2001). 青年期女子の「冷え」の自覚とその要因に関する研究. 母性衛生, 42(4), 784-789.

- ・ 中村幸代 (2006). 妊婦の冷え症と、随伴症状および日常生活行動との関連性. 日本助産学会誌, 21(3), 64.
- ・ 中村幸代 (2010). 「冷え症」の概念分析. 日本看護科学会誌, 30(1), 62-71.
- ・ 中山毅 (2010). 柴苓湯による不妊症治療への可能性. *Progress in Medicine*, 30(4), 1193-1198.
- ・ 日本生殖医学会(2008). 日本生殖医学会生殖医療ガイドライン 2007. 金原出版. 315.
- ・ 新野由子、岡井崇 (2008). 不妊治療を受ける患者に対する支援のあり方に関する研究(第1報). 母性衛生, 49(1), 138-144.
- ・ 西村豊、沖田秀仁(2009). 興味深い症例 女性不妊の東洋医学的治療. 中医臨床, 30(2), 224-227.
- ・ 小川久仁子、井田守、松本寛史他 (2011). 不妊症に対する低反応レベルレーザー治療 (LLLT)に関するアンケート調査. 日本受精着床学会雑誌, 28(1), 256-260.
- ・ 岡田睦美、宇野充子、永野英子他(2005). 冷え性における冷水負荷サーモグラフィと循環器検診成績、生活習慣との関連. *Biomedical Thermology*, 24(3), 44-50.
- ・ 太田博孝(2009). 不妊不育症妊娠例と冷え、虚寒症との相関. 日本東洋医学雑誌, 60(別冊), 360.
- ・ 定方美恵子、佐藤悦、村山ヒサエ (1997). 女性の冷え症の実態と冷房使用・食生活の関係 年代的特徴を中心に. 新潟大学医療技術短期大学部紀要, 6(1), 47-58.
- ・ 定方美恵子他 (2000). 冷え症の客観的評価に関する予備的研究. 新潟大学医学部保健学科紀要, 7(2), 215-226.
- ・ 定方美恵子、佐藤悦、佐山光子(2007). 中性温度環境下における冷え症女性の皮膚温 皮膚温特性と判断指標となる測定部位の検討. *Biomedical Thermology*, 27(1), 1-7.
- ・ 鈴木肇他(2006). 医学大辞典 第19版. 南江堂.
- ・ 鈴木めぐみ、平野泰雅、渡辺和悟他 (2009). 女性の冷えと関連愁訴に対する生薬製剤の効果. 日本未病システム学会雑誌, 14(2), 319-322.
- ・ 高木絢加他 (2011). 若年女性の冷え感に及ぼすエネルギー摂取量、ダイエット、および体熱産生制御に関わる交感神経活動の影響. 肥満研究, 17(2), 119-126.
- ・ 寺澤捷年(1987). 漢方医学における「冷え症」の認識とその治療. 生薬学雑誌, 41(2), 85-96.
- ・ 辻隆之(1988). 新しい体温計測の応用(2) 深部温計測, *BME*2(3), 185-191.

- ・ 渡邊実香(2010). 生殖医療施設における患者支援に関する全国調査 心理的支援の現状. 日本受精着床学会雑誌, 27(1), 14-18.
- ・ 山田典子、別宮直子、吉村裕之 (2007). 判別分析による若年女性の冷え症を識別する指標の選択：冷え症者の身体面および精神面の特性. 日本神経精神薬理学雑誌, 27(5-6), 191-199.
- ・ 大和孝子、青峰正裕(2002). 女子大学生における冷え症と身体状況および生活環境との関連. 総合健診, 29(5), 878-884.
- ・ 山崎貴子、本間健(2001). 女子学生における「冷え症」と食品摂取頻度との関連. 日本女子大学紀要 家政学部, 48, 25-29.
- ・ 山崎とよ(1981). 深部体温計による身体各部深部温の連続監視法とその臨床的評価—基礎編—. 東京女子医科大学雑誌, 51(10), 1441-1445.
- ・ 安井敏之(2012). ワンランク上の漢方診療 漢方処方の実際 女性不妊・排卵障害, 臨床婦人科産科, 66(1), 33-41.